

福井・西太郎丸遺跡

にしたろうまる

- 1 所在地 福井県坂井郡春江町西太郎丸
- 2 調査期間 一九九三(平五)九月～十一月
- 3 発掘機関 春江町教育委員会・福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 4 調査担当者 長谷川秀夫(春江町)・工藤俊樹・中森敏晴(福井県)
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 六世紀～一四世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(福井)

春江町は、福井市の北に隣接し、坂井平野の南側、九頭龍川下流右岸にある。西太郎丸遺跡は、春江町の中央部、役場近くに位置している。遺跡の立地は、磯部川と西太郎丸集落に挟まれた水田地帯である。標高四～五m前後を測る。

西太郎丸遺跡の調査は、「文化の森」建設事業に伴う発掘調査で、春江町教育委員会が福井県教育庁埋蔵文化財調査センターの協力を得て実施したものである。

調査の結果、古墳時代から中世までの期間に断続的に営まれた集落遺跡であることが判明し、遺構では掘立柱建物一四棟、井戸一九基、溝約六〇条などを検出した。建物、井戸とも律令期と中世の二時期に分けられる。

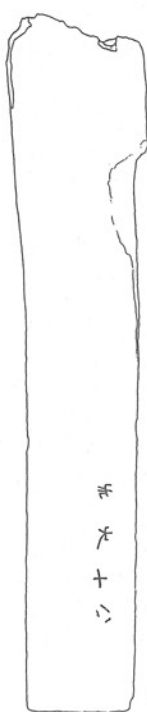
遺物の出土量は、整理用コンテナに約一〇〇箱ほどである。内容的には須恵器、土師器が大半を占め、特に土師質小皿が多い。木製品としては漆塗碗・皿、下駄などがあり、他に石器や種子類が出ている。土器類では、他に青磁・白磁や、越前焼・珠洲焼も若干含まれている。

8 木簡の积文・内容

(1) □ □ □ + □ □

(95) × (625) × 9 081

木簡は調査区東側にある律令期の井戸一から出土した。「十」以外は不明確である。木簡のもつ意味は、判然としない。



(中臣 順)